

# I-2

特集 糖尿病は増加しているのか —わが国の現状と予防のエビデンス—

## I. 糖尿病を取り巻く状況

# 世界の糖尿病の趨勢

山本万友美<sup>1)</sup>、野田光彦<sup>2)</sup>

1) 朝日生命成人病研究所附属医院 糖尿病内科  
2) 国立国際医療研究センター 専任診療部長、糖尿病研究部長

近年における糖尿病の有病率の上昇は世界規模の問題であり、とくに発展途上国における急増が深刻である。この増加には人口の高齢化、急激な都市化、生活習慣の変化、運動不足、肥満者の増大が大きく影響している。この変化は今後の世界医療経済に大きな影響を及ぼすことが予想される。本稿では、IDF (International Diabetes Federation: 国際糖尿病連合) や WHO (World Health Organization: 世界保健機関) の報告を中心に世界の糖尿病の現状と今後の取り組みについて解説する。

## 世界の糖尿病の疫学

### IDF や WHO の報告から

IDF は、216 の国・地域の 20~79 歳の糖尿病有病者数について、2011 年の現状を推計し 2030 年の予測を行うために、565 のデータソースをレビューし、うち 110 の国からの 170 のデータソースを選んで統計的な処理を行った<sup>1)</sup>。

IDF では世界の総人口が、2011 年には 70 億人から 2030 年には 83 億人に増大すると予測するなかで、成人の糖尿病有病者の総数は 2011 年には 3 億 6,600 万人、2030 年には 5 億 5,200 万人へ、成人の IGT の総数は 2011 年には 2 億 8,000 万人、2030 年には 3 億 9,800 万人へ増大すると推定している (表 1)<sup>2)</sup>。成人の糖尿病有病率は 2011 年時 8.3% から 2030 年時には 9.9% に増大し、成人の IGT 保有率は 2011 年時 6.4% から 2030 年時には 7.1% へ増加すると推定している (表 1)<sup>2)</sup>。また、世界の糖尿病患者のうち 50% である 1 億 8,700 万人が診断されていない状況である (図 1)<sup>2)</sup>。

2011 年から 2030 年にかけて、糖尿病人口のすべての年

表 1 糖尿病人口と糖尿病関連の総数・有病率の推移 (文献 2 より作成)

	2011 年	2030 年
世界の総人口	70 億人	83 億人
世界の成人 (20~79 歳) 人口	44 億人	56 億人
糖尿病有病者数*	3 億 6600 万人	5 億 5200 万人
糖尿病の有病率*	8.3 %	9.9 %
IGT 総数*	2 億 8000 万人	3 億 9800 万人
IGT の保有率*	6.4 %	7.1 %

\*成人 (20~79 歳) 人口を対象とした。糖尿病人口 (主に 2 型糖尿病) は、2011 年には世界の成人人口の 8.3% にのぼり、2030 年には 9.9% に達すると予測されている。

齢層における増加が予想されている。2011 年時には 40~59 歳の有病者数が多く、2030 年でも同様の傾向が予想されるが、2030 年の 60~79 歳のグラフから読み取れるように、より高齢層における糖尿病人口の増加に注目すべきである (図 2)<sup>2)</sup>。

WHO の 2000 年の報告によると、糖尿病有病率の男女差については、全体では男性のほうが糖尿病の有病率が高く、女性のほうが糖尿病人口は多かった<sup>3)</sup>。これは高齢者で糖尿病有病率が高く、かつ、女性に高齢者の多いことが理由と考えられる。図に示す高齢層における有病率の男女差は、平均寿命に女性優位の男女差があるな

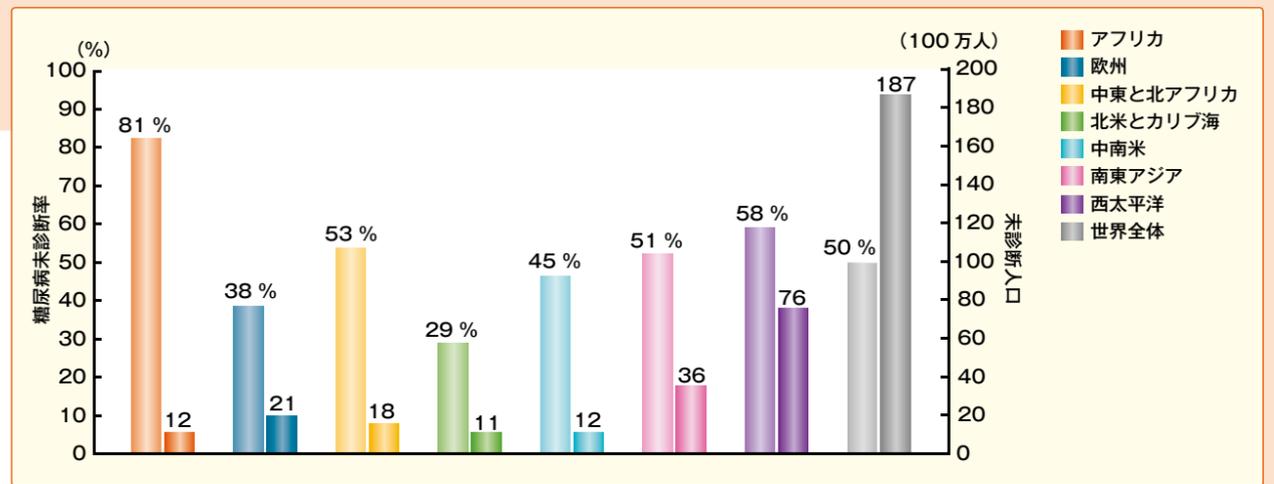


図 1 糖尿病未診断率および未診断人口 (文献 2)  
糖尿病患者の 50% にあたる 1 億 8,700 万人が診断されていない状況である。

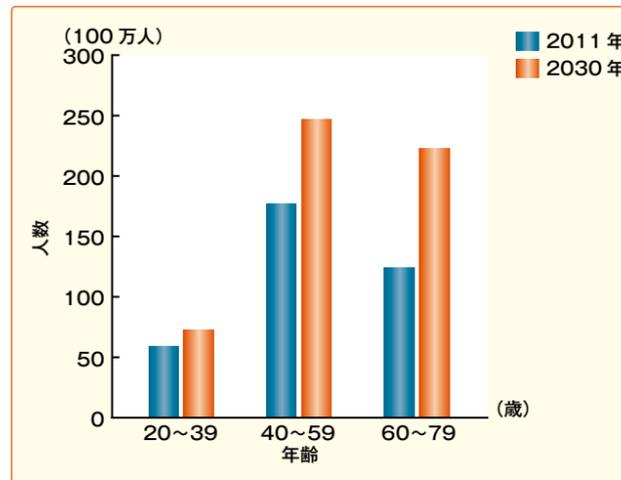


図 2 年齢別糖尿病人口の推移 (文献 2 より作成)

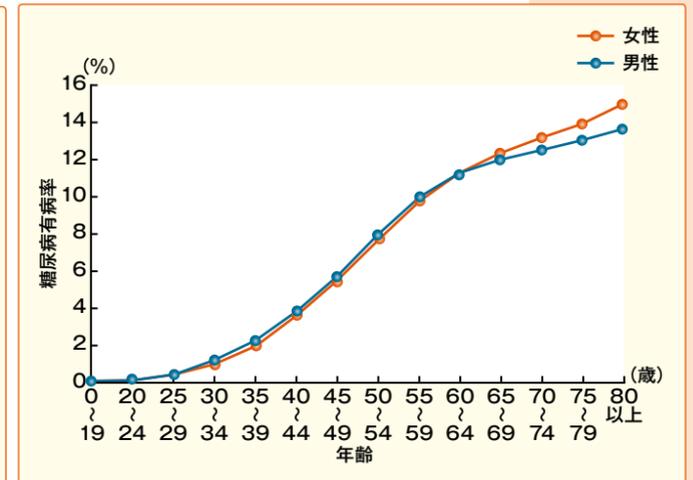


図 3 糖尿病有病率における性差 (文献 3)  
WHO の報告では、全体的には糖尿病の有病率に大きな男女差はみられなかったが、60 歳未満では男性の、高齢層では女性の有病率がやや高かった。

かで、男性有糖尿病患者の死亡年齢が比較的に若年であることに起因すると筆者らは考える (図 3)<sup>3)</sup>。一方、IDF によれば、2011 年の糖尿病人口は女性より男性が 400 万人多いという結果で (男性: 1 億 8,500 万人、女性: 1 億 8,100 万人)、2030 年にはこの差が 200 万人に縮まると予想している (男性: 2 億 7,700 万人、女性: 2 億 7,500 万人)<sup>2)</sup>。2011 年と 2030 年の有病率の世界地図をそれぞれ、図 4・図 5 に示す<sup>2)</sup>。

糖尿病人口の多い国は、2011 年では中国、インド、アメリカ合衆国と続き、上位 3 カ国は 2030 年の予測でも不変である (表 2)<sup>1, 2)</sup>。BRIC 諸国は全て上位 10 位

以内に入っており、アメリカ合衆国が唯一の高所得国であった。

高い有病率を示すのは、太平洋諸島や中近東である。2011 年の上位国はキリバス、マーシャル諸島、クウェートであり、2030 年も上位 3 カ国は不変である (表 3)<sup>2)</sup>。

世界全体の糖尿病発症率については有用なデータに乏しいが、2000 年の WHO による統計では、WHO の診断基準を満たす糖尿病についての発症率は男性で 196.0/10 万人・年、女性で 213.6/10 万人・年であった<sup>4)</sup>。また、それらの中の、国としての報告の 1 つである、Inter99 study では、デンマーク人 4,615 人において、自己申告あるいは OGTT